

SPCフローリング 施工ガイドライン

施工前にすべての指示をよくお読みください。不適切に取り付けた場合、保証が無効になる場合があります。

必要な工具

- ・カッターナイフ
- ・巻尺
- ・定規
- ・スペーサー（割り箸代用可）
- ・タッピングブロック
- ・プルバー
- ・ゴムハンマー

必要に応じて下敷きとして防湿シートを使用してください。

施工前のチェックポイント

- ・床材に欠陥がないか注意深くチェックしてください。欠陥が見つかった場合は、直ちに販売元にご連絡ください。
- ・欠陥のある板は取り付けしないでください。
- ・床材を室温管理された作業現場に24～48時間程適応させることをおすすめします。（下記の推奨室温を参照してください）。箱は平らに（決して端に置かず）保管し、空気が流れるように箱の端を開いて、高さは3～5箱以下にしてください。
- ・施工前、施工中、施工後、48時間以上で室温を18.5℃～29.5℃に維持する必要があります。
- ・クッションフロア、アスファルトベースのフロア、カーペット、接着剤不要のフロア、薄板または置き敷き床、または構造的に不具合があるコンクリートの上には施工しないでください。
- ・反りを防ぎ、ロックシステムを保護するために、常に水平に保管する必要があります（決して端に置かないでください）。積み重ねる箱の高さは5つまでにしてください。
- ・**落とさないこと** - 角や端を衝撃から保護してください。箱を端に落とすと、ロックシステムの内部が損傷する可能性があります。
- ・下地準備：ほこり、塗料カス、ワニス、ワックス、油、硬化シーラー、その他の異物がないようにします。既存の床材施工時の糊残りはできる限り取り除いてください。また、下地に不陸がないことをお確かめください。

適切な下地

下地の過剰な水分は、カビの発生・繁殖など水分による問題が発生する可能性があります。不健康な室内環境の一因となり得ますので、避けて下さい。

また、クッションフロア、アスファルトベースのフロア、カーペット、接着剤不要のフロア、薄板または置き敷き床、または構造的に不具合があるコンクリートの上には施工しないでください。

コンクリート下地

コンクリート下地(RC造)の置床に施工する場合は、12mm合板を捨て貼りしてください。

ご注意：下敷きとして防湿シートの使用をおすすめします。弾力性ある下敷きは施工には推奨されず、保証対象外になります。

木質下地

12mm以上の合板及びパーティクルボードの下地に使用できます。合板・パーティクルボードのジョイント部分に段差がないことをお確かめください

石膏ボード下地

床材用の石膏ボード下地の上に置き敷き床として使用することができます。その際、ジョイントに不陸がないことをお確かめください。

重ね貼り

本製品は、ほとんどの既存の滑らかな単層の硬い表面またはクッションのない弾性床材の上に施工できます。弾力性のある床材の周囲や継ぎ目にカールした部分がないか確認し、必要に応じて補修します。高品質のセメント系エンボスレベラーを使用して、既存の床を滑らかにして充填します。カーペット、クッション付きの弾力性のある床、浮いている床や緩く敷かれている床の上には施工しないでください。

▲ 注意

当社の保証は、不適切な下地またはその下地の不適切な施工によって引き起こされる問題には適用されません。

下地の準備

- ・すべての下地は乾燥し、清潔で、滑らかで、平らで、既存の接着剤の残留物がなく、動きやたわみがない必要があります。
- ・重要: 床面の平坦度は1mm以内としてください。高い箇所は研削し、低い箇所は埋めてください。
- ・すべての合板の継ぎ目とコンクリートの亀裂、グラウトライン、エンボスパターン、建設接合部、制御接合部、くぼみ、溝、その他の凹凸を埋めて平らにします。自己平衡セメントを使用してください。
- ・下地を掃いたり掃除機をかけたりして、埃や破片をすべて取り除きます。

施工開始

- ・本製品は置き敷き床であるため、下地に接着剤や釘で固定しないでください。
- ・屋内での使用のみを目的としています。
- ・板を取り付ける方向を決定します。
注：部屋を広く見せるため、または非常に小さな部屋や廊下に設置する場合は、板を部屋の長辺と平行に置くことをおすすめします。
- ・SPC板の上にキャビネットを設置しないでください。

- 部屋のサイズを測定して面積を決定し、最後の列の幅も決定します。最後の列の幅が舌部分を除いて 50 mm未満の場合は、最初の列の幅をそれに応じて切断して調整する必要があります。
- 部屋の周囲とすべての垂直方向のオブジェクトの周囲に、少なくとも3mmの拡張スペースが必要です
- 施工前および施工中に、すべての板に目に見える欠陥や損傷がないか検査してください。損傷した板を施工しないでください。LUXE-KENは、明らかな欠陥がある床に施工された場合のクレームについては責任を負いません。施工中に、板の溝部分を検査し、板の適切な組み立てを妨げる可能性のある破片を取り除きます。
- 本製品は、自然な外観を高めるために、色と質感の幅広いバリエーションが設計されています。最低5つの箱から交互に板を取り出し、バリエーションを調和して最高の自然な外観を実現します。
- モールディングは床の全体的な外観と色が調和するように設計されています。各板には多くの色と質感のバリエーションがデザインされているため、「完全に一致」することはできません。板材と成形品間の色や質感の違いは、不良品とはみなされません。

施工手順

1. 開始壁の左側から板を敷き始め、右側に向かって作業します。板の舌側が開始壁に面し、溝側が外側を向きます。
2. 板の短辺と長辺と壁の間に3mmのスペーサーを置きます。壁と板の端の接合部が接する場所との間に、必ず1つのスペーサーを置きます(図D2 および 図D3を参照)。
3. 最初の列の板の端継目は、前の板の溝側に舌側を低い角度で挿入することによって組み立てられます。端のジョイントが閉じるまで板を徐々に下げて平らにし、板が完全に位置合わせされ、滑らかで、水平であることを確認します。必要に応じて、ゴムハンマーとタッピングブロックを使用して端を軽くたたき、端のジョイントをしっかりと固定します。両方の板の端が完全に位置合わせされ、互いに水平であることを確認することが重要です。仕上げに損傷を与える可能性があるため、板を表面に直接叩かないでください。タッピングブロックを使用します。同様に続けて最初の列に取り付けます(図D2、図D3を参照)。
4. 最初の列の最後の板を切断する必要があります。壁と最後の完全な板の表面の間の距離を測定します。スペーサーを考慮してこの寸法から3mmを減算します。この寸法が20cm未満の場合は、列の最初の板の長さをカットする必要があります。これにより、列の最後に長い板を配置できるようになります。各列の最初と最後の板の長さは少なくとも20cmである必要があります。板はテーブルソーを使用して切断するか、直線エッジとカッターナイフを使用して切り込みを入れて折ります。板の上面にいくつかの切り込みを入れます。カッターナイフで何度も押し込み、切り込み線と板を折ります。その後、取り付けられている下敷きを切り取る必要がある場合があります。
5. 最初の列の最後の板から切り取った残りの部分は、長さが20cm以上であれば、2列目の最初の板として使用できます(図D5を参照)。端の接合部分は列ごとに常に20cm以上ずらしてください。
6. 2列目の最初の板の長辺を取り付けます。壁と板の短辺の間に3mmのスペーサーを忘れずに配置してください。舌側を前の列の溝側に低い角度で挿入し、下地に対して平らになるようにします(図D5を参照)。
7. 2列目の2番目の板を取り付けます。板の長辺を、舌側が前の列の板の溝に約3mm重なるように配置します。

8. 端のジョイントを前の板に角度を付けて取り付けます。板を上に向けて、板が前の列に固定されるまでゆっくりと前方に押しします。続いて残りの板を2列目に取り付けます。施工全体に影響を与える可能性があるため、最初の2列が真っ直ぐで正方形であることを確認することが重要です。各列を設置した後、ゴムハンマーとタッピングブロックを使用して、厚板の接合部を前の列の接合部に軽く叩き込み、端と側面の接合部がしっかりとフィットし、完璧に位置合わせされていることを確認します。隙間や位置ずれがあると、取り付けの品質に影響を与える可能性があります(図D5を参照)。
9. 各列の最後の板は、壁に3mmの拡張ギャップを維持しながら、列の端に合わせてカットする必要があります(図D6と図D7を参照)。方法は次のとおりです。
 - (1) ボードを裏返します(溝を左側に置きます)。
 - (2) 最後の板と壁の距離を測定します。
 - (3) マイター、テーブルソー、またはカッターナイフ ボードにマークを付けてカットし、スナップします。
 - (4) ボードを裏返して所定の位置に挿入してタップします。
 - (5) 残りのピースを使用して次の行を開始できます。
10. プルバーを使用して、列の最後の板と最後の列を固定します。
11. 左から右に1行ずつ作業を続けます。必ずすべての壁と垂直のオブジェクトの間に3mmのスペースを取り、ランダムな外観を維持します。端のジョイントは列から列まで20cm以上オフセットします。

床暖施工

本製品は、床暖房の仕上げ材としてもご使用できますが、以下のような注意事項を遵守して施工及びご使用ください。

床暖方式：温水マット方式(小根太付き)をご利用ください。

※電気フィルム式およびコンクリート直埋式ヒーター方式には使用できません。

床構造：断熱材 / 下地合板 / 温水マット / 9mm 合板 / SPCフローリング。

※温水マットとS・P・Cフローリングの間に必ず9mm合板を捨貼りしてください。

使用条件：給湯器の温水温度は60℃以下で設定し、SPCフローリングの表面温度は29.5℃以下で使用してください。

施工完了

- すべての板を施工したら、部屋の周囲からスペーサーを取り外します。
- 見切り材を取り付けます。床材に見切り材を固定しないでください。
- 見切り材は、3mmのスペースをカバーするのに十分なサイズである必要があります。床材に固定し、壁に固定してください。
- 重い家具や電化製品を所定の位置に移動するときは、厚さ3mm以上のメソナイトシートを使用してフローリングの上部を覆い、保護します。
- 家具の脚の下には適切な床保護材を使用してください。
- 設置後の室温は18.5℃～29.5℃(床温度)に維持する必要があります。相対湿度は30%～50%に維持する必要があります。
- 砂、土、砂の追跡を防ぐために、屋外につながるすべてのドアにウォークオフマットを置きます。

見切り材に関する注意事項

円形の場合は、事前に穴あけして取り付けます。拡張スペースをカバーするのに十分な厚さが必要です。見切り材を床に固定せず、壁に取り付けてください。見切り材の底部と床の間には、自由に伸縮できる十分なスペースがあることを確認してください。

階段への取り付け

階段に設置する場合は、板を階段面に直接接着する必要があります。まず、1mmの下敷きの裏地を取り除く必要があります(裏地を剥がすだけです)。

ビニルタイルまたはLVTの取り付け用に特別に配合された接着剤のみを使用してください。接着剤メーカーの使用説明に従ってください。

メンテナンス方法の最新情報については、当社の Web サイト WWW.LUXE-KEN.CO.JP をご覧ください。

ご質問やご不明な点がございましたら、LUXE建材のお客様センターまでご連絡ください。

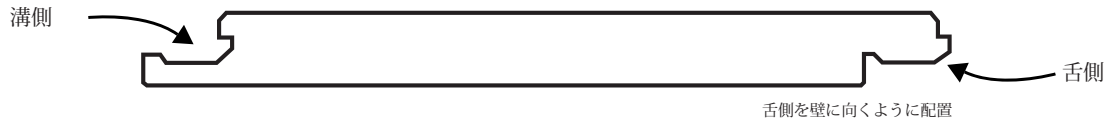


お客様センター

customerservice@luxe-ken.co.jp

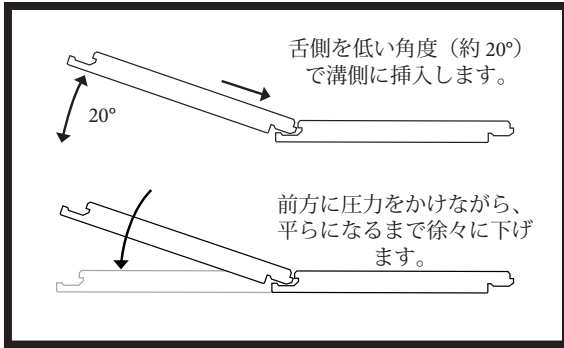
更新日: 2024/03/08

組み立て方法説明

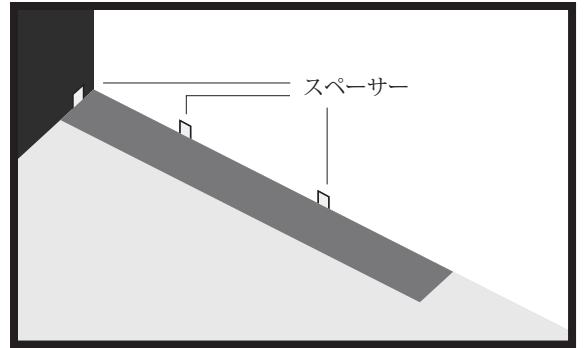


注: 図は説明のみを目的としています。実際のデザインは異なる場合があります。

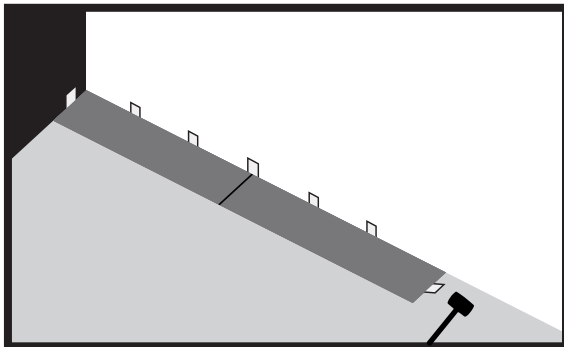
D1



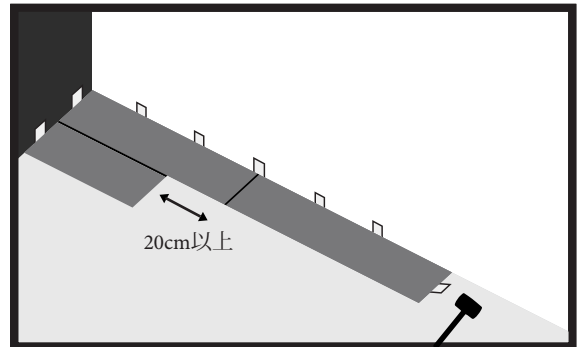
D2



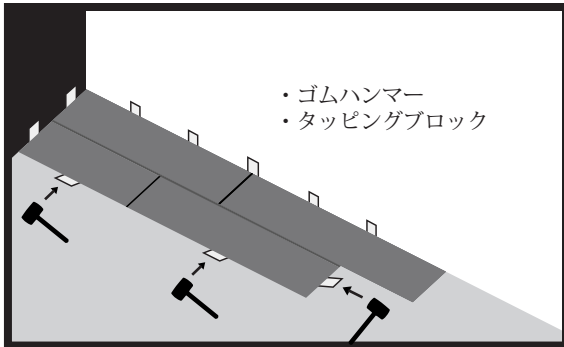
D3



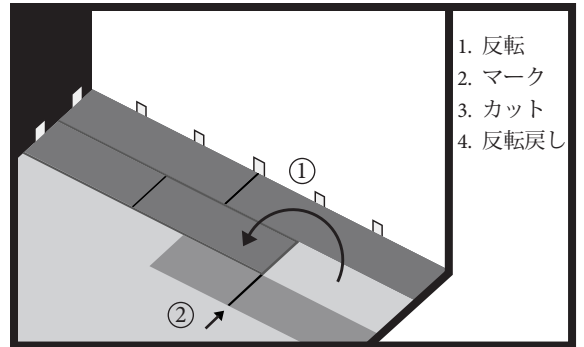
D4



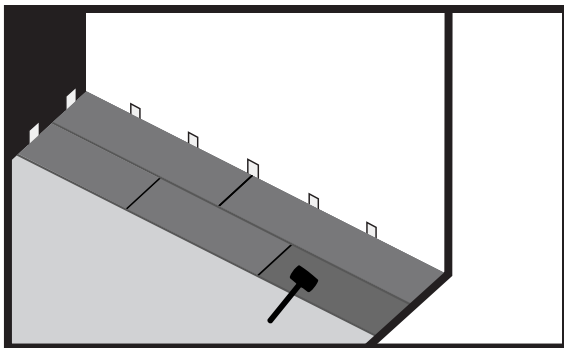
D5



D6



D7



D8

